

平成 27 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■蚕桑地区：8月25日（火）午後7時30分～9時 参加者数 64名

Q. まちづくり複合施設の整備も人口減少も考慮し他の施設利用も検討すべき。たくさん施設があるはず。

A. 会議室など中央公民館機能を兼ねて、町民のみなさんにもたくさん利用していただき、災害時には防災センターとしても利用していく。

機能は集約するが、どうバランスを取るかが大切。防災・福祉・教育など地域でできることは地域でやっていただくよう、コミセンを強化活用していきたい。バランスの取れた整備をしていく。その都度お知らせして意見をいただきたい。

Q. 人口の減少についてはどう見ているか。

A. 人口推計では、平成 32 年 13,288 人、町としての目標値は 13,500 人。人口減少をくい止める総合戦略を策定していく。

Q. 外から人を集めることが必要。地元の子供が地元の学校（荒砥高校や山形大学）で森林を学ぶ機会があればいい。親も「町はいいところだ」という意識改革が必要。企業誘致は難しいだろう。

A. 大学に進学すると、なかなか町に帰ってこないのが実態だと認識している。国や県では、都市部の大学等に行き地元に戻り就職した場合、基金創設により奨学金制度と連携して、返済を免除する制度を創設する動きもあり、これらの状況を見守りながら検討したい。

定住には職場が必要だと思っているが、企業誘致は難しい。既存の企業では求人が多いと聞いている。求人と求職者がマッチングできていない状況。起業や新規就農者の支援など行っている。就業人口の 4 割は他市町に勤務しており、近隣市町と連携し、住むのは白鷹町ということで進めていきたい。

成人式でアンケート調査を実施した。成人式には、約 180 名中、約 160 名が参加している。住む場所や結婚、仕事などについてお聞きした。結果は今後お知らせしていくが、成人者の思いにこたえる受け皿作りが必要。企業誘致は難しいが、町内の福祉産業は伸びている。背景として荒砥高校での福祉関係の資格取得に向けた養成講座などもあるのではないか。小さなことかもしれないが町として支援していく。

Q. ①I ターン、J ターンを増やす手立てはあるか。②荒砥高校に林業科を設置してほしい。

A. ①人口は、山形県自体が減少しており、116万人を切っている。平成17年の推計では、現時点では年間出生数の推計が60名ぐらいとされていたが、目標を100名として取り組みをしてきた。100名を切り今年も80名ぐらいかとみている。人口の増加は、出生によるものと、転入によるものの二つの側面があり、これまでも陽光学園の開所やマルハニチロさんの移転などによって人口が増えた経緯もある。雇用創出や定住に向けた現実的な手立てを考えていきたい。国の特殊出生率は1.4、町は1.6。地域をベースにしたまちづくりを町が支援していきたい。

②林業科に関しては、来年度から山形県立農業大学校において10名定員で新設されると聞いている。

Q. ①子どもが増える取り組みが必要、それに向けた婚活を推進してほしい。テレビなどで町の名前を広めてほしい。

②空き家の利活用はどうなっているのか。

③人材育成、若者育成、特に国際感覚の養成について具体的な取り組みはあるか。

A. ①田勢康弘さんの番組などでも紹介いただいたり、そのほかの番組などでもフラワー長井線や紅花など紹介されてきている。認知度を上げて交流人口を増やしていきたい。

②老朽危険家屋もあるが、まだまだ利用できる空き家については、人口減少の歯止めとなる移住者の受け皿としての利用を考えている。具体的には、8月中に民間事業者による空き家ネットワーク協議会が設立され、「空き家バンク」を開始していただいた。今後は、登録件数を増やし、有効活用を図りたいと考えている。

③今年度、白鷹人育成基金を活用して、町内の中学生と高校生を海外に派遣する予定。具体的には、11月に、オーストラリアへ、中学3年生5名、荒砥高校2年生3名を派遣し、国際感覚を養っていただきたいとの思いで準備を進めている。

Q. 町を訪れる観光客数と目的を教えてください。

A. 約40万人。イベント参加や施設利用者が中心で通過型の観光ととらえている。

Q. 観光において歴史も大切にしてほしい。芳賀忠徳碑、白ヶ沢金山、瑞龍院など現状を見て対応してほしい。

A. 十分受け止めている。桜も「古典桜」として県指定天然記念物を受ける取り組みを行い実現した。瑞龍院については、過去において観光で使わせていただけなかった経過があ

る。

Q. 白鷹中学校の現在の様子はどうか。

A. 生徒数は 413 名、2 年前から実施してきた東西中学校の生徒どうしの交流などの成果もあり、スムーズに学校運営が行われ、授業も仲良く受けている。生徒会では、昨年度中にそれぞれの学校で役員が選出され、生徒会長など 2 名ずつの体制で順調に活動している。部活動では、新しく柔道部、陸上部が増え、6 月の西置賜地区中学校体育大会では、7 種目において団体優勝。PTA 活動は、昨年度から準備いただき、全保護者が 3 年間の中で 1 回は役員をする体制の中で、学校と連携を深め活動している。

座長 昨年の中学校の地域懇談会では不安の声があったが、今年は何もなかった。一安心している。

Q. スクールバス待合所に自転車がある。保護者と連携を取ってほしい。

A. 休日の部活動の時かと思われる。午前・午後便があり、公民館など主な場所での乗り降りになっている。停留所を細分化すると歩いて乗れると思うが、冬期になるとまた条件が変わってくるので、学校とも連携し対応したい。今後、できるだけ自転車を使わないように調整していきたい。

Q. 旧西中学校跡地の利活用と、新庁舎のエネルギー供給の計画について教えてほしい。

A. 庁内プロジェクトで検討している。施設の環境を活かして、民間が主体の管理運営、雇用の創出、防災施設（高台）などの視点において検討している。福祉関係からの利活用の要望もある。

エネルギー供給源については、今後検討していく。すべてを町内で対応ということだけでなく、近隣市町とも連携していくこともあるかもしれない。もう少し検討の時間がほしい。

Q. まちづくり複合施設の町内木材利用について、平成 30 年完成予定だかまだ伐採していない。無垢材なのか集成材なのか。100 パーセントの利用は難しいのではないか。

A. 町内産材を無垢材として利用するというをプロポーザルの条件にしている。現在、鮎貝自彊会の森林調査をしている。80 年生のスギなどもあり、十分確保できそう。伐採は森林組合と調整している。この期間で対応できる。製材所は町内 1 社あるがすべては対

応できない。町外と連携できないか提案している。施設整備に使う木材の全部を調達できる量は確保できる。

Q. 木はある。うまく使って森林産業につなげてほしい。回る仕組みづくりを。

A. 施設は、防火帯も必要で、町内産材 100 パーセントとはいかない。ここがスタートととらえている。個人の住宅にも木材を提供できないか、町内で製材する仕組み、町内の大工さんにかかわっていただくことなど検討していきたい。

Q. まちづくり複合施設の事業費はいくらか。

A. 「基本構想」の概算事業費は 31 億円。今後、「基本設計」「実施設計」を策定する中でコストダウンを図っていきたい。